

神殿講話

172. 6. 21

本日は、下市分教会の6月の月次祭、梅雨の最中の日曜日、家族揃って大勢お参りにお帰り下さいまして、只今は結構に、共々勇んでおつとめをつとめさせて頂き誠にご同慶に存じます。お話の当番に当ててくださっておりますのでしばらくの間つとめさせて頂きたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

今日は父の日ですね。どうかお父様方を大切にしてくださいね！私事ですが、実は二日前の19日は、私の60余り1歳の誕生日でした。子どもたちからは、誕生日と父の日を合わせて既にプレゼントをもらってありましたし、当日には、子どもたち全員が電話をかけてきて「おめでとう」を言ってくれました。しかし、私の誕生日を一番喜んでくれているのは、きっと家内ではないかと思っています。4年前の12月21日、ここ下市分教会の平成17年の納めの月次祭が終わり、家内と一緒に、憩の家へ放射線治療に行きました。抗癌剤治療に、乳房の全摘手術、そしてまた抗癌剤治療とかなりハードなガンとの闘いの中で、最後の放射線治療でした。これが一連の最後の治療でした。帰りの車の中で、「今日は、54歳の誕生日やなあ！何かお祝いをせなあかなあ？」と私が言いますと、家内は「今までは、歳はとりたくない。いつまでも若くいたいので、誕生日なんか来なくてもいいと思っていたが、今は、こうして誕生日を迎えさせて頂くことは本当に有難い、嬉しいことやと思うわ。親に感謝せなあかん！帰ったら母親に電話してお礼いわなあかなあ！」と、言っていたことを思い出します。家内の55回目の誕生日はやってきませんでした。が、今頃は、ニコニコしながら「61回目の誕生日を迎えて良かったね！私がおらんでも何とかやってるようなあ！まあ、私の分までしっかり長生きし

てや！」と言っているような気がします。(笑い)

記録を見ますと、去年は、7月21日にここでお話をさせて頂いています。そのときは冒頭に我が家の話をさせて頂きました。今日も少しふれさせて頂きたいと思います。長男の子どもは「結」という名前で女の子です。満1歳になりました。生まれて5日目で、この孫が初めて乗った車が救急車でした。奈良市立病院から生駒の近大病院へ。そして生まれて9日目に腸の手術をしました。その後の経過も順調で今ではもう病院へ通うことはなくなり安心していきます。今は、よちよちと歩きでとても可愛いです。よく笑います。長男は愛想が悪いかもしれませんが、孫は、愛想も愛嬌もいいです。きっと嫁に似たのでしょう。次男のところは、今年の3月3日のお雛祭りの日に赤ちゃんが生まれました。雛祭りに女の子が生まれたら絵になり、話にもなりますが、残念ながら、雛祭りに男の子が生まれました。聞けば、大教会の若奥様は5月5日生まれだとのことでしたので、私は、長男の子どもこともありましたから、無事に生まれただけで嬉しいのですが、それに、今までの孫は女の子ばかりでした。4人目にしてやっと男子誕生です。私は3月3日だから「桃太郎」という名前にしたらどうや？「一つ、この世の醜い浮世の鬼を退治してみせよう桃太郎！」「正義の味方、世直し桃太郎や！」と勧めたのですが、見事に却下されて「大和」と命名しました。「大和講」の大和であります。その大和君は3ヶ月になりました。これは結ちゃんとは違いよく泣く赤ちゃんです。いつ見ても泣いています。結ちゃんが生まれたときは、教会に「金木犀」を植えました。今度の大和君が生まれたときは、「桃」を植えました。毎日、水をやり、その木の成長も楽しみしています。また、長女の子どもは上が今年の4月から天理北中学校に入り、下は櫛本小学校3年生です。これが我が家の子どもたちの近況です。

さて、去年は、身上・事情などの節は、信仰上の現在地を知る一里塚であるという話をさせて頂きました。「通さぬは、通すがための道普請である」とのお話をさせて頂きました。

今日は、「私の九州布教事情あれこれについて」そして「究極のアホ！」についてお話させて頂きたいと思います。

私は、昨年8月から、教会に住み込んでくれている九州からやってきた52歳のとても不器用なおっちゃんと二人で生活しています。食事は専ら私が作り、彼は専ら食べる役を務めてくれています。私の教会では、毎週日曜日の夕食はカレーライスを作って、夕づとめに参拝にきてくれる人たち10人ほどと一緒に食べます。不器用なおっちゃんも近頃は、ジャガイモ、人参、玉ねぎなどを剥いたり切ったりして下拵えが出来るようになりとても嬉しく思っています。ま、それだけは手伝ってくれるようになりました。それに最近は慣れてきたのか結構冗談もいうようになりました。先日も便所の戸をきちんと閉めずにうんこをしていたので、「君、便所はちゃんと閉めて、うんこするように！大きなお尻丸出しやったぞ！」といいますと、「えらい、すんまへんたい。そんな奴おらんがな～」と答えてきます。私も最近は炊事もだいぶ慣れてきて、マカロニ入りのポテトサラダを作ったら、この不器用おじさんに「マヨネーズが少ないですたい。もう少し多くでないと美味しくない」と言われました。私は「えらい、すんまへん」と誤る始末です。一昨日は、新ショウガの甘酢漬けを作っていると、不器用おじさんが側へきて「会長さんも、腕上げたやなかばってん～！チッチキチー！」と言って笑わせてくれます。ま、野次喜多道中のような教会生活をしています。

この不器用おじさんは、2日に一度1日4時間仕事に行ってます。隔日で1日仕事に行って、翌日は休みです。休みの日の午前の日課は、午前9時からお昼まで、チラシ配りひのきしんです。毎月500軒ほど配ってくれています。午後2時からお願いづとめ、神殿掃除、草引きや町内のゴミ拾いなどをしていています。控えめな性格で、自分で気づいて、先先と動くタイプではありませんが、私が言ったことや頼んだことは必ずやってくれるので有難く思っています。

最近では、この不器用おじさんの存在が我が教会でも大きくなってきました。教会の近所の子どもたちも教会のおっちゃんとして認知してるようです。これまた嬉しい限りです。もし、この人がいなくて、私が一人だったら、食事もきちんと摂らずに生活習慣も乱れて、身上が悪化していたかも知れません。そう思うと、食べるのが大好きなこの不器用でもこのおじさんがいてくれるお蔭で私は助けてもらっているのだと最近はつくづく思います。

さて、昨年9月には、これまた九州からカップルが手に手をとって恋の道行きと、仲良く、私を頼ってやって参りました。女性は長崎は島原の人で、男性は福岡八女の人でした。2ヶ月間は教会にいましたが、その後、この下市分教会の近くに借家をして新生活を始めました。新生活を始めるについて皆さん方から家具や電化製品や諸々を頂いて最初は仲良くやってましたが、だんだんとケンカばかりするようになり、女性は今年の1月からその家を出て、知人のところを転々として暮らしていました。男性はそのままその家に留まり、型枠大工として大淀町の工務店に勤めていました。それでも手の手をとって遠いところからやってきた二人ですから、時々は出会ってたようです。その度ごとに男性は女性に暴力をふるってたていたようです。3月末になって

また二人は何かの理由で出会ったときには、かなりの暴力で、もうこれ以上は殺されてしまうと思った女性は、警察に診断書をつけて被害届けを出しました。その事を知った男性は、姿をくらまし、未だに何処へ行ったか分かりません。このことで、教会へ刑事がやって来るわ、私も中吉野警察で事情聴取されたりで、警察では、その男性を捜していますが、、たいした事件でもないので真剣に捜してるようにも思えません。そんなこんなで借りた借家は、誰も住んでいないので、家主さんから保証人の私のところに連絡があり、家の中のものを整理してお返しすることになりました。住人の二人はおりません。家賃は5か月分溜まっていました。今年1月から払っていません。電気代も今年1月から払っていません。ガス代はその家に住んでから一度も払っていません。水道代も一度も払っていません。それに玄関と勝手口の鍵も捨ててしまい、新しいものに付け替えなくてはなりません。新聞代も4ヵ月分溜まっていました。全部で相当の費用になりました。その日暮らしの大名である私にはそんなお金は持っていません。

さて、さて、どうしたらいいのか？サラリーローンで借りて払うかと思案しました。今の私でも50万円までならすぐに貸してくれるのです。最後はそうしようと決めました。長男のところには、既に年末に、このカップルが九州から私のところまで来るのに乗ってきたレンタカー代金20万円を借りて支払っています。このカップルのために貸してほしいと頼むこともできません。「親父はアホやな！親父のためなら出すけど、そんな二人のためにはいややな！」と、嫁の手前もありそういうに決まっています。そうは言っても長男はこれ持って行きと言って必要な額以上に出してくれるに違いありませんが。そんな男気のある頼もしい奴だと私は勝手に思っています。

いろいろ考えているときに、ふと浮かんだのは私の弟です。早速、弟に頭を下げて頼みました。「すまん。お金貸してくれ」兄の私は、弟に頼むのは本当に情けないことです。子どもや弟や妹のことなら何でもしてやりたいのは親や兄の責任でも威厳でもあります。今はその反対です。子どもに頭を下げたり、弟に頭を下げたりで高慢な私には耐え難くみっともないことです。私は、この九州お騒がせカップルに、前世にどれだけ借りていたのか？今世では借りた覚えがありませんので、きっと前世に借りていたに違いありません。借りたものを返すのに、また借りて返す。借りたものは一向に減ることはありません。

弟は、「お金持っても増えへんから、南都銀行に、少しでも増える方法はないのか？と聞いたんや。そしたら是をお勧めしますとのことで、700万預けたんや。しかし、不景気でそのお金の運用が悪くて、増えるどころか150万ほど減ったと連絡がきた。もし、景気がよくなったら配当は兄貴のところに入るように手続きしてあるのになあ！」と言って笑っていました。そんな話を聞いたら早く景気がよくなってほしいと思ったもんです。弟に頭を下げに行った翌日に、弟は「はい、これ」と言って頼んだお金以上に多く持ってきてくれました。有難いことです。他にも、信者さんの中で、少ないけどこれを使ってくださいと持ってきてくれた人もいました。嬉しいことです。とりあえずは、このカップルのための未払い分の支払いは済ませることができました。人のために、しかも、あまり良くも知らない人のために、子どもや兄弟に頭を下げて情けない思いをするなんて全く人間思案ではアホな話です。

以前にお話しましたが、8年前に、同じく九州から65歳の男性を私どもの教会でお世話させて頂いたことがあります。残念ながら肺ガンで出直され、私

どもの教会でお葬式をさせて頂きましたが、入院中に、埼玉から25年ぶりに父親と再会したという娘夫婦と子どもが見舞いにやってきて、その時に、娘婿が、私に「水本さん、貴方は親父にいくらのお金を掛けたのですか？」と尋ねてきました。「保険金？」と問い直す私に「今時、無償で人の世話をするようなアホな人はいません。生命保険は掛けたのでしょうか？一億ですか？」と話をたたんできます。私は保険のことは全く意識にもなく「ああ、なぜ、もっと早くに貴方と出会わなかったのか？保険掛けとけばもっと早くに教会の普請もできたのに…」と半ば呆れて冗談で返事しましたが。「人の世話はアホがする」とはよく言ったものだと思います。世間からすると、私のしていることは「アホなこと」なんです。親子でも自分のことだけしか考えず、20年も30年も疎遠になっても何食わぬ顔でそんなことを言っています。

話は変わりますが、今年の1月から体調が悪くなりました。九州お騒がせカップルのこともあり、教会に住み込んでいる不器用おじさんのこともあったのか？9年前の脳梗塞がぶり返してきたのか？血圧が高くて安定しない。右半身が痺れてますが、今度は左まで痺れてきた。いよいよ太い血管が詰まって寝たきりになるのか？それとも一気に家内が迎えに来てくれたのか？夜、寝るのも不安で気持ちの悪い日々を過ごしました。通院している憩の家で、血液検査、MRI検査をして頂きましたが、私の脳の太い血管はきれいなものだと医者はいいます。毛細血管はあちこちが黒い。これは血管が詰まって血液が流れていないところだが新しく脳梗塞を起したところはないと説明してくれました。今までの薬と、更に一錠多く血圧の薬を出してくれました。しばらく様子を見ましようとのこと。その薬が効いてきたのか？今は、左半身の痺れはなくなり、通常の右半身だけの痺れに戻りました。これ以上病気が進まないようにしてるだけの治療です。その薬を増やしてもらっただけで、

今までの通院の費用が、倍になりました。えらいものです。効き目も倍になったのでしょうか？

そんな苦しんでいる 1 月から 4 月の間、不器用おじさんの食事の世話もできにくいので、思い切って言いました。「見ての通り、体調が悪いので、貴方のお世話もできない。悪いけど九州へ帰ってくれるか？」と。九州にはご両親が健在です。大きな身体でどんどん歩いてもビクともしない立派な家です。何度も言ったんですが、不器用おじさんは、私のことなど知らんぷり。こんなにもしんどいのに…。世話して欲しいのは俺の方やがな…。もしも、子どものところへ行くとしたら、どの子のところへ行ったらいいのか？長女の家か？次男の家か？と真剣に考えていたんです…。

結局は、不器用おじさんの勝ちでした。とうとう九州へ帰りません。いくらしんどくても私が食事の用意をして、専ら食べ役の不器用おじさん。満足そうに食べてくれるその顔は、まるで黒牛のようです。その黒牛を眺めては苦笑いの毎日でした。私は黒牛に、「一回、漂白したろか？」というと「これ以上、白くなったら往生しまっせ！」と、切り替えされる始末。

そんなこんなの中、体調も少しずつ戻ってきましたので、今月 11 日、夜 9 時 30 分、京都駅八条口発の夜行バスで、半年ぶりに、前から気になっていた九州へ行ってきました。夜行バスでの九州行きは初めてでした。翌日、8 時 20 分に西鉄久留米駅着。専修科時代の友人が迎えに来てくれて、久留米大学の前にある彼の教会へ。朝倉部内の教会です。友人夫婦と「このたびは、我が大教会へ陽子奥様が帰って来てくださってありがとうございます。と、若奥様はとてもきれいでやさしい奥様だね」などなどお茶を頂きながら話が弾み、そ

の後、友人の車で、次の目的地である佐賀県鳥栖市にある「麓刑務所」へ知人の面会に行きました。ここは女刑務所です。三年前の法律の改正で、今までは親族、家族しか許されていなかった面会が、本人の更生を妨げる人以外なら、正規の手続きをすれば誰でも面会できるようになりましたので、私はもう何度かこの刑務所へ面会に行ったことがあります。「ここには、創価学会の本はたくさんあるけど天理教の本がない。送ってください」と前に来た手紙に書いてあったので、昨年末には大量のおみちの本を贈りました。裏には新興分教会のスタンプをバッチリおしてありますが。半年ぶりの面会でしたが知人は元気そうで安心しました。彼女は大分県の人です。自宅にお母さんやお姉さんを訪ねて行ったこともあります。以前、この刑務所に入っていた私の知人から、私に手紙を書くことを進められて知った女性でした。前は、殺人未遂事件で逮捕されて、刑期を終えて、5年前ですが、おぢばに帰ってきて、別席を運びようぼくになっています。今回はやくざの主人がらみの事件でまたまた逮捕され、今はここのお客さんになって、刑期はまだ1年ほど残っています。そんな中で、せっせと手紙を書いてきます。手紙もひと月に出せる回数制限もあり、面会も刑の度数によって、ひと月の回数制限があります。面会は最長で30分までです。面会者が多いときは、短くなります。待合室にアナウンスされます。「5番の方、面会室へお入り下さい。」ガシャンと大きな鉄の扉が開けられて中へ入れてくれます。「元気出して頑張りや！目頭を押さえて泣いています。女の涙は怖いので…。また来るからな～」と15分ほどの面会が終わって、JR鳥栖駅から南福岡駅へ。南福岡で降りて、西鉄雑餉隈駅まで今度は事情の人捜しです。結局は見つけれずに、JR南福岡からJRに乗って次は古賀市へ。

4月にここ古賀市で新婚生活を始めた加●●花さんに出会いに行きました。旧

姓●井●花さんです。駅から電話したらすぐにベビーカーに5ヵ月になる丸々した可愛い●海君を乗せていつもの●花スマイルでやってきました。それから一緒に、西海大教会へ参拝に。ちょうど午後の神殿掃除が終わったときぐらいで、当番の先生に、「ご挨拶に参拝させて頂きました。私は、奈良県吉野の櫻井大教会・下市分教会部内の新興分教会の水本と申します。このたび私どもの布教所の娘が縁があってこの古賀市へお嫁に来させて頂きました。住まいからこちらの大教会が近いのでまた参拝させて頂けたらとご挨拶に来させて頂きました」と。「ああ、そうですか。いつでもどうぞどうぞ!」と、快くお返事してくださいました。西海大教会は明るくて大きく立派な神殿でした。教祖と祖霊様の前には大きな壺にたくさんの花が飾られていました。賽銭箱や結界が後ろにあって、中段には、左右に大きなテレビが二台置かれていました。あのテレビは?とお尋ねすると「学びのDVDを流しています」とのことでした。●花ちゃんは、もう2,3回はこの大教会へ参拝しており、大教会の奥様とも親しくお話させてもらってるとのことでした。帰りにケーキ屋さん寄って「会長さん、どれにしますか?」と言いますので、ほんならこれ、チョコレートの乗ったショートケーキを指差しますと、彩花ちゃんは、これ下さい。とそのケーキ一つだけ買ってくれ、加藤宅へ寄り、「ご当地限定のマンゴーカルピスで〜す。」と先ほどのケーキと一緒に出してくれました。ケーキを食べてカルピス飲んで、二人の写真を撮って10分足らずで、「ほんなら、また来るからな。ご主人の●介君によろしくね。」「あ、そうそう、天理時報読むか?」と聞くと「はい」と答えたので、「よっしゃ、来月から入るように手続きしとくからな」と。駅はすぐです。5分ほどのところ。駅までの道中に「頑張りや。ちょっとは料理覚えたか?仲良くするんやで〜。●介君のご両親にも可愛がってもらうんやで〜」などなど、話ながら古賀駅へ。

今度は博多で降りて、地下鉄に乗り換えて、またJRに乗って前原市周船寺駅へ。博多からは約30分。そこからタクシーで王丸へ。この前原市王丸は、私の九州布教の拠点なんです。9年前にここから始まっています。最初に坂木宅へ寄りました。この坂木宅は、私どもの教会では、九州から始めてのようぼくになり、修養科を出て、検定講習も終わり、教人登録した坂木久さんの実家です。肺ガンで出直された方です。もし、今も元気でいて下さったらこの九州布教も違った展開になっていたかも知れません。でもそれは考えても詮無きこと。彼が出直して7年になっても久さんの実家の兄夫婦の家からは、9年前に最初にお世話させて頂いてから、今まで毎月お米一斗と自宅でとれた野菜を神饌にと宅急便で送ってきてくださっています。兄弟がお世話になったからと変わることなく今まで続けてくださるのは真実の心があればこそです。今回も坂木老夫婦のいつも変わらぬやさしい笑顔でのお出迎えに、いつ来ても九州の我が家に帰ったような気がします。そして、「先生、はい、焼酎」と、言って、ご主人の幸男さんが、焼酎八にお湯二で割った殆ど焼酎ばかりのコップを渡してくれます。「先生、今日はこれたいね！」と麦焼酎「ひむかくろうま」の箱を指さして、美味しそうに飲まれるそのお顔は幸せそのものです。そして何度も何度も「弟が、久がお世話になりました」と八十を過ぎた老夫婦は、若輩の私に何度も何度もお礼を言われます。この坂木家は親子孫、みんな素晴らしい人たちばかりです。「喜び上手の不足下手」。なんでも「嬉しい、楽しい、有難い」と喜ぶことの出来る家です。徳の有る家やなあ！といつも思っています。

2杯か3杯かの焼酎を頂いて気持ち良くなったところに、坂木宅から歩いて5分ぐらいで最終訪問先であり今回の宿泊先でもある不器用おじさんの実家谷口宅へ行きました。テーブルの上には、私を歓待してくれるためにお母さん

が一生懸命考えて作ってくださった食べ物に並べられています。不器用おじさんのお母さんは、「お世話になってすみません。トシヒロは元気にやってますか？」「はい、元気で頑張ってますよ。ご安心ください」「何処かへ働きに行きよりますか？」「はい、奈良交通というバス会社へ行きよりますたい」「へー、バス会社ですと？バスは乗りますか？」「バスには乗りません。バスは洗うとりますたいね。バスのお掃除の仕事ばしとりますたいね」耳が遠くなったお母さんに私は大きな声で説明です。「バスの清掃係りをやりますか？そりゃあよか」と不器用おじさんののお父さんも目をしょぼしょぼさせながら話に入ってきます。そして、一緒に、谷口宅に行った坂木さんも、「ま、先生、飲みましょう」と焼酎を勧めてくれます。「バスは洗うとりますか」「飲みましょう」と何度も繰り返す老人たちです。私は焼酎に酔ったのと、あちこち回って来て疲れたので、早々に休ませて頂きました。

翌朝、教会では、役員さんと不器用おじさんが、朝づとめをつとめてくれているので、私も7時に、谷口宅で、いずれは、この大きな仏壇を取り払って、神様をお祀りさせて頂き、布教所の看板を掲げたいなどと妄想しながら、朝づとめをさせて頂き、二下りの学びをつとめさせて頂きました。

その後、不器用おじさんの姉婿と妹婿が来てくださったので、今回の目的でもあった、にをいがけです。私の訪問に合わせて谷口宅へ来てくださるようお願いしておきましたので都合をつけて来てくれました。私は取引をするために二人に来て頂いたのではありません。義理の弟を、義理の兄をお世話しているから何々してください。というつもりはありません。既に天理時報は送らせて頂いています。でもまだ一度もおちばがえりはしてありません。

「かしもの・かりもの」のお話と「日参の理」のお話を分かるようにさせて

頂いたつもりです。真剣に聞いてくれました。それぞれに事情も身上も抱えていることもそのときに初めて耳にしました。良かったと思いました。この二人に出会って良かったと思いました。今回は、実の兄弟の事情ではありません。義理の兄弟のことです。話をされていてだんだんと実の兄弟の事情として受け取ってくれて話が出来たように思います。これからももっともっと信頼関係を深めていかなくてと思いました。夕方には、妹婿さんに博多まで送ってもらい、車中でもいろんな話ことができました。再会を約束して、博多駅前発の夜行バスに乗り込み帰ってきました。

縁とは不思議なものです。考えて見れば、●乃理布教所の●井●恵さんは長崎県佐世保からお嫁に来てくれました。今度はその子どもさんが、福岡県古賀市へ嫁に行き、九州とは縁があります。また、今回のお騒がせカップルの女性と私が9年前に、出会ったことから彼女の知り合いに坂木家があり、その繋がりで谷口家がありと、縁が繋がっています。また、他の繋がりで受刑者との拘りもできてきました。もっと遡れば、私が高校3年生のときに、自転車で九州を一周してきたことが種になっていたのかも知れません。いやいや、もっとももっと以前から、前生からの繋がりがあってこそ、今生もいろいろと組み合わされているはずです。そう考えると、この世で出会う人は全て、何らかの形で縁のある人たちばかりです。お世話になったり、恩になった人たちばかりです。

その恩返しの最初は、親切からだと思わせて頂きます、目指すは「底なしの親切」であります。「底なしの親切」「底抜けの親切」に徹することが「究極のアホ！」だと思っています。

私は、信仰とは「究極のアホ！」を目指すことだと考えています。

「あいつはアホな奴や！他人のことで苦労して！」と、いつもそう言われるような信仰を目指したいと思っています。賢い私が目指すアホの世界、さてさて、これから先はどのような展開になりますことやら！

これからも、この不器用牛おじさんと二人仲良く、教会の御用をつとめさせて頂き、遅々とした歩みであっても、せつかく道ができてきた「九州布教」に向い、「究極のアホ！」を目指して理の種を蒔き続けたいと願っています。

御清聴ありがとうございました。

●印は本人の希望で公表していません。